

運動器疾患と柔道整復術		講義	准教授 伊藤 新	
科目カテゴリー	柔道整復師コースの専門選択科目	科目ナンバリング	12341301	

1. 授業のねらい・概要

柔道整復師の業務は、骨折や脱臼、捻挫などの外傷を治療することである。しかしながら、柔道整復師の治療を求めている患者は、外傷性だけでなく非外傷性の疾患も含まれている。また、外傷性の疾患の中には柔道整復師が対応できないものが含まれている。したがって、これらを適切に評価するには、それぞれの疾患の病態をしっかりと理解することや、類似している疾患の特徴などを把握する必要がある。また治療法に対しては柔道整復師が古来より行ってきた伝統的な方法などを中心に説明を行う。

2. 授業の進め方

主に Power Point を用いたスライドおよび板書による講義形式で授業を行う。必要に応じて動画などを教材として利用し、イラストを中心にわかりやすく編集された教科書を補足的に用いる。

3. 授業計画

1. ガイダンス	9. 意識障害を伴う損傷
2. 柔道整復術の適応疾患の特徴と病態	10. 脊髄症状のある損傷
3. 外傷に類似した症状を示す疾患	11. 呼吸運動障害を伴う損傷
4. 血流障害を伴う損傷	12. 内臓損傷を伴う損傷と高エネルギー損傷
5. 末梢神経損傷を伴う損傷	13. 上肢外傷の診察・治療法
6. 脱臼骨折	14. 下肢外傷の診察・治療法
7. 外出血を伴う損傷	15. 体幹外傷の診察・治療法
8. 病的骨折と脱臼	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講するまでに前回の授業内容を、配布プリントやノートを使って復習しておく（1時間程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施の際、解答のポイントおよび出題意図を試験終了直後に説明する。

6. 授業における学修の到達目標

各項目の要点をまとめて記述できるようになる。

7. 成績評価の方法・基準

定期試験の結果（100％）によって評価する。

8. テキスト・参考文献

施術の適応と医用画像の理解 社団法人全国柔道整復学校協会南江堂
 柔道整復学・実技編改訂2版 社団法人全国柔道整復学校協会南江堂
 毎授業で資料を配布する。

9. 受講上の留意事項

携帯電話の使用、飲食、帽子の着用は認めない。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は整形外科における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。